



大阪大学医学部から誕生

心筋梗塞・脳梗塞リスク判定

遺伝的体質と検査数値から疾患の進展リスクを予測

「心筋梗塞・脳梗塞リスク判定」は、リスクとなる体質遺伝子と血圧、コレステロール、血糖などの検査数値を掛け合わせて判定し、検査項目ごとの総合リスクを4段階で評価します。どの検査項目をコントロールすれば疾患の進展を防げるか一目でわかります。

検査からわかること



同年代と比較した疾患の進展リスクについて



動脈硬化、心筋梗塞、脳梗塞の進展リスクについて



腎機能障害の進展リスクについて

結果報告書は心筋梗塞、脳梗塞、動脈硬化、腎機能障害のリスク判定に加えて、保有している遺伝子から各疾患の進展を予防する方法を提案しています。各疾患の重症化予防に有効です。

体質遺伝子と検査結果に基づくアドバイス付報告書

報告レポートイメージ



疾患のリスクを血管年齢リスクグラフで表示

検査値と遺伝子情報から総合リスクを判定

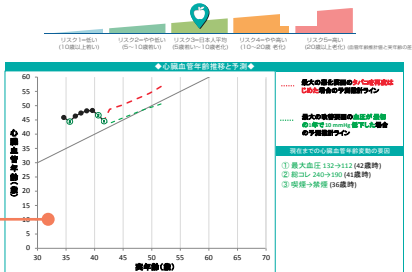
このような方に

- > 心筋梗塞、脳梗塞、透析を患った近親者がいるので心配
- > 血圧、血糖、コレステロールなどの検査数値に異常があった

過去と現在の検査値と遺伝子により血管年齢の推移と予測を表示

心筋梗塞 血管年齢リスク3 (日本人平均)

あなたの心臓血管年齢は44.6歳と推計されます。(実年齢より3歳老化)



判定	項目	あなたの検査値	正常値(単位)	心臓病のリスク	日本人の平均
😊	血圧	112	130未満(mmHg)	😊	😊
😞	コレステロール	LDL	146	120mg/dL未満	😞
		HDL	60	40以上(mg/dL)	😊
😊	血糖 (ヘモグロビンA1c)	4.8	6未満(%)	😊	😊
😊	BMI (体重(kg)/身長(m) ²)	24.4	25未満(kg/m ²)	😊	😊
😊	喫煙	禁煙	禁煙	😊	😊
😊	その他の遺伝子リスク			😊	😊

心筋梗塞に関するアドバイス

心筋梗塞とは?

心臓の筋肉に酸素と栄養を運ぶ冠動脈の隅が動脈硬化によって狭くなり、血液が十分に流れなくなることで心筋梗塞が起きます。さらに、血液が固まりやすくなると、その部分の心臓の隅は壊れ、深い傷みを起こします。これらが心筋梗塞です。発作時の典型的な症状は、胸のつかえ、圧迫感、灼熱感とともに、強い痛みのために、汗や吐き、呼吸困難、嘔吐などの症状を伴い、意識を失ってしまう場合もあります。心筋梗塞の発症のほとんどは、冠動脈硬化によります。これは発症に至るのには長く、高血圧、高血糖、脂質異常、肥満、喫煙、運動不足、家族歴、高尿酸血症などの危険因子が作用し少しずつ進行しています。

和食、有酸素運動、禁煙が心筋梗塞予防の基本です。

和食を基本とし、「本質性食物繊維」[DHA/EPA]を積極的に摂取し、心筋梗塞の予防に努めます。ウォーキングなどの「有酸素運動」は、心臓機能を高めると共に、脂質を改善し心筋梗塞リスクの低減が期待されます。ただし、心臓に負担の少ない運動を心がけましょう。タバコは心筋梗塞を悪化させるので、禁煙が必須です。心筋梗塞は突然発症することもあるので、定期的な心臓検査は必須です。

LDLコレステロールを下げるのが重要です

血中のLDLコレステロールが上昇すると、血管壁にコレステロールが蓄積し、心筋梗塞のリスクが高くなります。あなたにLDLコレステロールが高いので、遺伝子リスクを保有しており、心筋梗塞のリスクが高いです。心筋梗塞のリスクを下げるため、LDLコレステロール値を下げるのが重要です。「本質性食物繊維」[DHA/EPA]を積極的に摂取し、さらに、「有酸素運動」を続け、LDLコレステロール値を下げるのが重要です。

血液の粘度に注意

血液をさらさらさせるタンパク質(α2マクログロブリン)が減少すると、心筋梗塞のリスクが高くなります。「アルギニン」は、血液をさらさらにする働きがありますのでおすすめです。「アスコルビク」の摂取も「ヒールタンパク質」は、α2マクログロブリンを増やして、血液の粘度を下げることが重要です。

血管年齢改善重要項目

	最大の健康効果は低糖質・低炭水化物の食事です	LDLコレステロールを下げるのが重要です	HDLコレステロールを上げるのが重要です
心筋梗塞	HbA1c 1%	LDLコレステロール値を50%以上下げる	HDLコレステロール値を50%以上上げる

遺伝子から栄養素やライフスタイルをアドバイス